

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11) 特許出願公開番号

特開2017-144699

(P2017-144699A)

(43) 公開日 平成29年8月24日(2017.8.24)

(51) Int.Cl.	F I	テーマコード (参考)
B 4 1 J 2/14 (2006.01)	B 4 1 J 2/14 6 0 5	2 C 0 5 6
B 4 1 J 2/18 (2006.01)	B 4 1 J 2/14 2 0 1	2 C 0 5 7
	B 4 1 J 2/18	

審査請求 未請求 請求項の数 18 O L (全 13 頁)

(21) 出願番号 特願2016-30137 (P2016-30137)
 (22) 出願日 平成28年2月19日 (2016.2.19)

(71) 出願人 000001007
 キヤノン株式会社
 東京都大田区下丸子3丁目30番2号
 (74) 代理人 110001243
 特許業務法人 谷・阿部特許事務所
 (72) 発明者 中川 喜幸
 東京都大田区下丸子3丁目30番2号 キ
 ヤノン株式会社内
 Fターム(参考) 2C056 FA03 FA13 HA05 KB16
 2C057 AF37 AG15 AG29 AG31 AG46
 AN05 BA04 BA13

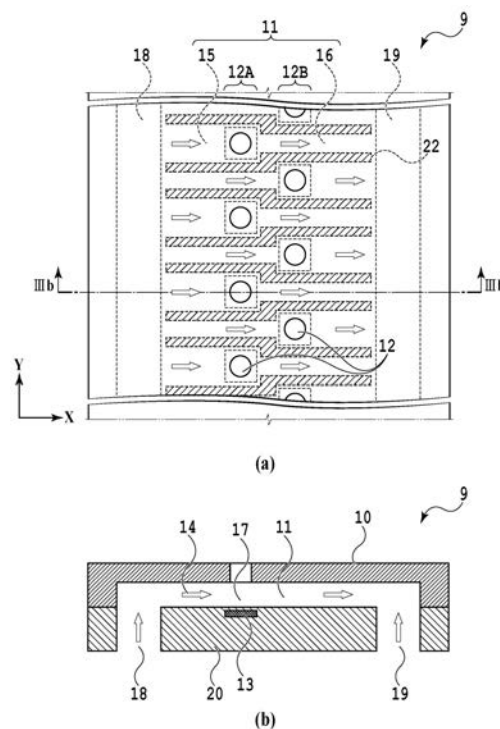
(54) 【発明の名称】 記録素子基板、液体吐出ヘッドおよび液体吐出装置

(57) 【要約】

【課題】 記録素子基板のサイズの増加を抑制しながら多列化した吐出口列を高密度に配置した記録素子基板、液体吐出ヘッドおよび液体吐出装置を提供すること。

【解決手段】 隣接する流路同士のそれぞれが連通する吐出口列12Aの吐出口と吐出口列12Bの吐出口とを、矢印X方向に所定距離ずれた位置に配置し、各吐出口が独立した流路を備える。更に、流入口18と流出口19の間に吐出口列12Aと吐出口列12Bとを設ける。

【選択図】 図3



【特許請求の範囲】

【請求項 1】

液体を吐出するための複数の吐出口と、
前記複数の吐出口それぞれについて設けられ、前記吐出口から液体を吐出するための圧力を発生する圧力発生素子と、

前記圧力発生素子が設けられた基板を貫通して設けられた第 1 の開口および第 2 の開口と、

1 つの前記吐出口に対応して設けられ、前記吐出口と前記第 1 の開口とに連通した第 1 の流路と、

1 つの前記吐出口に対応して設けられ、前記吐出口と前記第 2 の開口とに連通した第 2 の流路と、を備え、

前記第 1 の流路と前記第 2 の流路とは、前記吐出口を挟んで設けられ、

前記第 1 の流路および前記第 2 の流路とこれらの流路に対応する前記吐出口が、前記第 1 の開口と前記第 2 の開口との間に配置された記録素子基板において、

隣接する前記第 1 の流路または隣接する前記第 2 の流路がそれぞれ連通する前記吐出口は、相互に、前記第 1 の流路または前記第 2 の流路が隣接する方向と交差する方向にずれて配置されたことを特徴とする記録素子基板。

【請求項 2】

隣接する前記第 1 の流路または隣接する前記第 2 の流路のそれぞれが連通する前記吐出口は、前記第 1 の流路または前記第 2 の流路が隣接する方向に所定の間隔でずれて設けられていることを特徴とする請求項 1 に記載の記録素子基板。

【請求項 3】

前記第 1 の開口および前記第 2 の開口は、前記第 1 の流路または前記第 2 の流路が隣接する方向に列を成した複数の開口であることを特徴とする請求項 1 または請求項 2 に記載の記録素子基板。

【請求項 4】

前記第 1 の流路および前記第 2 の流路は、異なる 2 種類の幅の流路を備えていることを特徴とする請求項 1 ないし請求項 3 のいずれか 1 項に記載の記録素子基板。

【請求項 5】

所定の前記吐出口に対応する前記第 1 の流路と前記第 2 の流路とは、異なる幅を備えていることを特徴とする請求項 1 ないし請求項 4 のいずれか 1 項に記載の記録素子基板。

【請求項 6】

複数の前記吐出口は、前記第 1 の流路または前記第 2 の流路が隣接する方向に列を成して設けられた吐出口列を形成しており、

前記第 1 の開口に近い位置に設けられた前記吐出口列である第 1 の吐出口列の前記吐出口に対応する前記第 1 の流路と、

前記第 1 の開口から遠い位置に設けられた前記吐出口列である第 2 の吐出口列の前記吐出口に対応する前記第 2 の流路と、は、略等しい幅を備えていることを特徴とする請求項 1 ないし請求項 5 のいずれか 1 項に記載の記録素子基板。

【請求項 7】

複数の前記吐出口は、前記第 1 の流路または前記第 2 の流路が隣接する方向に列を成して設けられた吐出口列を形成しており、

前記第 1 の開口に近い位置に設けられた前記吐出口列である第 1 の吐出口列の前記吐出口に対応する前記第 2 の流路と、

前記第 1 の開口から遠い位置に設けられた前記吐出口列である第 2 の吐出口列の前記吐出口に対応する前記第 1 の流路と、は、略等しい幅を備えていることを特徴とする請求項 1 ないし請求項 6 のいずれか 1 項に記載の記録素子基板。

【請求項 8】

所定の前記吐出口に対応する前記第 1 の流路と前記第 2 の流路とのいずれか一方は、複数の幅を備えた流路であることを特徴とする請求項 1 ないし請求項 7 のいずれか 1 項に記

10

20

30

40

50

載の記録素子基板。

【請求項 9】

前記吐出口を挟んで隣接する前記第 1 の流路の幅と前記第 2 の流路の幅とは、略等しい幅であることを特徴とする請求項 8 に記載の記録素子基板。

【請求項 10】

円柱状のフィルタを備えており、該フィルタは、第 1 のフィルタと、該第 1 のフィルタよりも断面積の小さな第 2 のフィルタであることを特徴とする請求項 1 ないし請求項 7 のいずれか 1 項に記載の記録素子基板。

【請求項 11】

前記フィルタは、前記第 1 の流路および第 2 の流路に対応して設けられており、

前記第 1 のフィルタに対応する前記第 1 の流路の幅は、前記第 2 のフィルタに対応する前記第 1 の流路の幅よりも広く、

前記第 1 のフィルタに対応する前記第 2 の流路の幅は、前記第 2 のフィルタに対応する前記第 2 の流路の幅よりも広いことを特徴とする請求項 10 に記載の記録素子基板。

【請求項 12】

隣接する前記第 1 の流路または隣接する前記第 2 の流路のそれぞれが連通する前記吐出口は、前記第 1 の流路または前記第 2 の流路が隣接する方向において、同じ位置に設けられていることを特徴とする請求項 1 に記載の記録素子基板。

【請求項 13】

請求項 1 ないし請求項 12 のいずれか 1 項に記載の記録素子基板を備えていることを特徴とする液体吐出ヘッド。

【請求項 14】

請求項 13 に記載の液体吐出ヘッドを用いることを特徴とする液体吐出装置。

【請求項 15】

第 1 の方向に配列される、液体を吐出するための第 1 の吐出口及び第 2 の吐出口と、

前記第 1 の方向と交差する第 2 の方向に延在し、前記第 1 の吐出口に連通する第 1 の流路及び第 2 の流路と、

前記第 2 の方向に延在し、前記第 2 の吐出口に連通する第 3 の流路及び第 4 の流路と、を備える液体吐出ヘッドであって、

前記第 1 の吐出口と前記第 2 の吐出口は、前記第 2 の方向にずれて配されており、

前記第 1 の流路と前記第 3 の流路とは並置され、かつ前記第 2 の流路と前記第 4 の流路とは並置されており、

前記第 1 の流路の幅は前記第 3 の流路の幅より狭く、かつ前記第 2 の流路の幅は前記第 4 の流路の幅より広いことを特徴とする液体吐出ヘッド。

【請求項 16】

前記第 1 の吐出口に対向する位置に第 1 の圧力発生素子が設けられており、前記第 2 の吐出口に対向する位置に第 2 の圧力発生素子が設けられていることを特徴とする請求項 15 に記載の液体吐出ヘッド。

【請求項 17】

前記第 1 の圧力発生素子または前記第 2 の圧力発生素子が内部に設けられた圧力室を備え、

前記圧力室の内部の液体は、当該圧力室の内部と当該圧力室の外部との間で循環される、ことを特徴とする請求項 16 に記載の液体吐出ヘッド。

【請求項 18】

前記第 1 の流路の長さは前記第 2 の流路の長さより長く、前記第 3 の流路の長さは前記第 4 の流路の長さより短いことを特徴とする請求項 15 ないし請求項 17 のいずれか 1 項に記載の液体吐出ヘッド。

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

10

20

30

40

50

本発明は、流路を通して供給されたインクを吐出する、記録素子基板、液体吐出ヘッドおよび液体吐出装置に関し、詳しくは、記録素子基板における吐出口列の配置に関するものである。

【背景技術】

【0002】

液体吐出ヘッドを構成する記録素子基板における吐出口列の配置として、インクを供給、流出させる通路の間に吐出口列が配置されるものがある（特許文献1）。この配列の液体吐出ヘッドでは、通路を介して圧力室に供給されたインクに、吐出エネルギーを付与することで、圧力室に連通する吐出口からインクを吐出して記録が行われる。

【先行技術文献】

10

【特許文献】

【0003】

【特許文献1】特開2010-188572号公報

【発明の概要】

【発明が解決しようとする課題】

【0004】

特許文献1のように、インクを供給、流出させる通路の間に1列の吐出口列が形成され、その吐出口列の吐出口に対するインクの流れが、吐出口列の全ての吐出口で同じ方向の流れとなる配置構成では、多列化によって記録素子基板が大型化するという問題がある。すなわち、全ての吐出口で同じ方向の流れとなる吐出口列を、同じ方向の流れのまま多列化しようとする、増加させる吐出口列に伴ってインクを供給、流出させる通路も設けることが必要となり、記録素子基板のサイズが増加し装置が大型化してしまう。

20

【0005】

よって本発明は、上記問題に鑑みてなされたものであり、記録素子基板のサイズの増加を抑制しながら多列化した吐出口列配置を可能とする記録素子基板、液体吐出ヘッドおよび液体吐出装置を提供することを目的とする。

【課題を解決するための手段】

【0006】

そのため本発明の記録素子基板は、液体を吐出するための複数の吐出口と、前記複数の吐出口それぞれについて設けられ、前記吐出口から液体を吐出するための圧力を発生する圧力発生素子と、前記圧力発生素子が設けられた基板を貫通して設けられた第1の開口および第2の開口と、1つの前記吐出口に対応して設けられ、前記吐出口と前記第1の開口とに連通した第1の流路と、1つの前記吐出口に対応して設けられ、前記吐出口と前記第2の開口とに連通した第2の流路と、を備え、前記第1の流路と前記第2の流路とは、前記吐出口を挟んで設けられ、前記第1の流路および前記第2の流路とこれらの流路に対応する前記吐出口が、前記第1の開口と前記第2の開口との間に配置された記録素子基板において、隣接する前記第1の流路または隣接する前記第2の流路がそれぞれ連通する前記吐出口は、相互に、前記第1の流路または前記第2の流路が隣接する方向と交差する方向にずれて配置されたことを特徴とする。

30

【発明の効果】

40

【0007】

本発明によれば、記録素子基板のサイズの増加を抑制しつつ多列化した吐出口列を高密度に配置した記録素子基板、液体吐出ヘッドおよび液体吐出装置を実現することができる。

【図面の簡単な説明】

【0008】

【図1】液体吐出装置の要部を示した斜視図である。

【図2】液体吐出ヘッドに接続される液体吐出装置のインク供給系の説明図である。

【図3】第1の実施形態の記録素子基板およびその断面を示した図である。

【図4】第2の実施形態の記録素子基板およびその断面を示した図である。

50

【図 5】第 3 の実施形態の記録素子基板およびその断面を示した図である。

【図 6】第 4 の実施形態の記録素子基板およびその断面を示した図である。

【図 7】第 5 の実施形態の記録素子基板およびその断面を示した図である。

【図 8】その他の実施形態の記録素子基板およびその断面を示した図である。

【発明を実施するための形態】

【0009】

(第 1 の実施形態)

図 1 は、本実施形態の液体吐出ヘッドを適用可能な液体吐出装置（以下、単に記録装置ともいう）1 の要部を示した斜視図である。液体吐出装置 1 は、フルライン式の記録装置である。すなわち、液体吐出ヘッド 2 は、記録媒体 3 の搬送方向に対してその記録幅全体に対応して吐出口を配列したヘッドである。そして、イエロー（Y）、マゼンタ（M）、シアン（C）、ブラック（K）のインクについて液体吐出ヘッド 2 Y、2 M、2 C、2 K が搬送方向に並ぶよう設けられている。これらの液体吐出ヘッド 2 に対して記録媒体 3 を搬送ベルト 4 によって移動させるとともに、各液体吐出ヘッド 2 から記録データに応じて吐出口から液体（以下、インクともいう）を吐出することにより、記録媒体 3 に対して記録を行う。

【0010】

図 2 は、図 1 に示した液体吐出ヘッド 2 に接続されるインク循環機構を説明する図である。液体吐出ヘッド 2 には、供給口 25 A、25 B、および排出口 26 A、26 B が設けられている。供給口 25 A は、チューブポンプ 103 a を介してサブタンク 104 a に接続され、供給口 25 B は、サブタンク 104 a に直接接続されている。一方、排出口 26 A は、チューブポンプ 103 b を介してサブタンク 104 b に接続され、排出口 26 B は、サブタンク 104 b に直接接続されている。また、メインタンク 107 は、ポンプ 105 を介してサブタンク 104 a、104 b それぞれに連通している。メインタンク 107 とサブタンク 104 a、104 b それぞれとの連通路にはそれぞれの弁 102 a、102 b が設けられている。さらに、サブタンク 104 a、104 b はそれぞれの水位センサ 106 a、106 b を備えている。

【0011】

コントローラ 110 は、ポンプ 105 および弁 102 a、102 b を制御することにより、メインタンク 107 内のインクをサブタンク 104 a、104 b に供給し、またサブタンク 104 a、104 b 内のインクをメインタンク 107 に戻すことができる。詳しくは、コントローラ 110 は、水位センサが検出するそれぞれのサブタンクの水位に基づいて、ポンプ 105 および弁 102 a、102 b を制御し、サブタンク 104 a、104 b それぞれのインクの液面の位置を調整する。これにより、液体吐出ヘッド 2 とサブタンク 104 a との間のインクの水頭差 H_1 、および液体吐出ヘッド 2 とサブタンク 104 b との間のインクの水頭差 H_2 を所定の大きさに維持する。ここで、水頭差 H_2 は、水頭差 H_1 よりも大きい値である（ $H_2 > H_1$ ）。

【0012】

以上の制御の下、記録動作時（インク吐出時）は、コントローラ 110 は、チューブポンプ 103 a、103 b を開放状態とし、サブタンク 104 a と供給口 25 A とを、またサブタンク 104 b と排出口 26 A とを、それぞれ連通させる。この結果、供給口 25 A、25 B に供給されるインクには、水頭差 H_1 に相当する比較的小さい負圧が作用し、排出口 26 A、26 B から排出されるインクには、水頭差 H_2 に相当する比較的大きい負圧が作用する。そして、これらの圧力差によって、供給口 25 A、25 B から液体吐出ヘッド 2 内に入り、図 3 およびそれ以降の図で後述されるように各圧力室において一方向に流れ、最終的に排出口 26 A、26 B から出て行くインクの循環を生じさせることができる。

【0013】

インクを循環させる方法は、本実施形態のように水頭差を利用する方法のみに限定されず、例えば、サブタンク 104 a、104 b を圧力室として構成し、それぞれの圧力室の

10

20

30

40

50

圧力を調整することにより上述した所定の圧力差を生じさせるようにしてもよい。

【0014】

図3(a)は、本実施形態に係る液体吐出ヘッド2を構成する記録素子基板における吐出口12やこれに対応する圧力発生素子13などの配列を示す図であり、吐出口形成部材の一部を除いて示している。また、図3(b)は、図3(a)のIIIB-IIIB線における断面図である。この図に示すように、記録素子基板は、吐出口形成部材10と基板20とが接合されて構成されている。また、図3(a)に示すように、吐出口形成部材10には、複数の吐出口12が所定の配列をなすよう設けられている。詳しくは、複数の吐出口12が図3(a)に示す矢印Y方向(第1の方向)に配列した吐出口列12Aと、この吐出口列12Aと同じ配列ピッチの吐出口列12Bとからなる配列を有している。そして、吐出口列12Aと吐出口列12Bは、相互に、図3(a)に示す矢印X方向(第2の方向)に所定の間隔でずれた位置であり、かつ矢印Y方向にそれぞれの吐出口配列ピッチの半分ずれた配置である。

10

【0015】

吐出口形成部材10には、流路壁22が設けられており、基板20と接合されることで、複数の吐出口12の夫々に対して、2つの流路15、16およびこれら流路と連通する圧力室17を形成している。2つの流路15、16を流路11とも称する。2つの流路15、16は、矢印X方向(第2の方向)に延在して並置されており、圧力室17の内部には、圧力発生素子13が設けられている。また、圧力発生素子13と対向する位置に吐出口12が設けられており、これにより電圧パルスの印加に応じて圧力発生素子13が発生する熱によって圧力室17内のインクに気泡を生じさせ、この気泡の圧力によって吐出口12からインクを吐出することができる。

20

【0016】

本実施形態では、図2にて上述した循環機構によって、記録動作時を含め、圧力室17に対して一定方向のインクの循環流14を生じさせている。つまり、圧力室17に供給されたインクが圧力室17の外部に排出された後、再度圧力室17に供給されることができるように構成されており、すなわち、インクが圧力室17の内部と圧力室17の外部との間で循環するように構成されている。なお、インク吐出がなされる圧力室17(吐出口12)では、インク吐出に伴って上記一定方向とは逆の方向のインクの流れが生じ得るが、その後その圧力室17で吐出動作がなされない場合は、ある時間を経た後、上記一定方向の循環の流れに戻る。この循環は、図3(a)に示す吐出口配列において、矢印X方向の循環である。したがって、流路15を圧力室17に向かってインクが流入する流入路15とも称し、流路16を圧力室17からインクが流出する流出路16とも称する。また、基板20には、その表面と裏面を貫通して流入口18および流出口19が形成されている。流入口(開口)18は、配列する複数の流入路15に共通に連通し、流出口19は、配列する複数の流出路16に共通に連通している。これにより、流入口18と流出口19は、吐出口列12Aおよび吐出口列12Bを挟むように、配置されることになる。

30

【0017】

本発明の実施形態は、以上のように配列する複数の吐出口(圧力室)について同じ一定方向(矢印Y方向と交差する矢印X方向)の循環が存在する吐出口列の、特に、吐出口の配列方向(矢印Y方向)のサイズを低減するものである。すなわち本実施形態の吐出口列の配列は、複数の吐出口について同じ一定方向(矢印X方向)の循環が存在する吐出口列が直線状の配列をなしていたと仮定した時、この列を、隣接する吐出口の位置を上記一定方向(矢印X方向)において相互にずらしたものである。このような構成により、流入口や流出口を新たに設けることなく吐出口列を多列化することができ、記録素子基板のサイズを小さくすることができる。

40

【0018】

上記配列による具体的構成としては、流入口18から近い位置にある吐出口列12Aに連通する流入路15は、流入口18から遠い位置にある吐出口列12Bに連通する流入路15に比べて断面積が広い。また、流入口18から近い位置にある吐出口列12Aに連通

50

する流出路 1 6 は、流入口 1 8 から遠い位置にある吐出口列 1 2 B に連通する流出路 1 6 に比べて断面積が狭い。そして、流入口 1 8 に近い位置に存在する吐出口列 1 2 A に連通する流入路 1 5 と流出口 1 9 に近い位置に存在する吐出口列 1 2 B に連通する流出路 1 6 の形状が実質的に同じに構成されている。更に、流入口 1 8 に近い位置に存在する吐出口列 1 2 A に連通する流出路 1 6 と流出口 1 9 に近い位置に存在する吐出口列 1 2 B に連通する流入路 1 5 の形状が実質的に同じに構成されている。

【0019】

これにより隣接する流路 1 1 つまり吐出口列 1 2 A に対応する流路 1 1 と吐出口列 1 2 B に対応する流路 1 1 の流抵抗を実質的に同等にすることができ、流入口 1 8 と流出口 1 9 の間に圧力差を設けた場合、隣接する流路 1 1 における流速を略同速にすることができる。このように、隣接する流路 1 1 におけるインク流速が略等しくなることで、隣接する流路 1 1 における吐出口 1 2 で、略同等の吐出特性を得ることができる。

10

【0020】

また、吐出口列 1 2 A と吐出口列 1 2 B の吐出口 1 2 の位置が吐出口 1 2 の配列方向（矢印 Y 方向）に半ピッチずれているため、吐出口列 1 2 A と吐出口列 1 2 B とを 1 列に配置した構成に比べて、圧力室 1 7 のサイズを大きくすることができる。よって、インクの量を多く吐出させるのに必要な大きな吐出口や大きな圧力発生素子を配置することが可能になり、大吐出量の液体吐出ヘッドを実現することができる。

【0021】

このように隣接する流路同士のそれぞれが連通する吐出口列 1 2 A の吐出口と吐出口列 1 2 B の吐出口とを、矢印 X 方向に所定の間隔でずれた位置でありかつ矢印 Y 方向にそれぞれの吐出口配列ピッチの半分ずれた位置に配置し、各吐出口が独立した流路を備える。更に、流入口 1 8 と流出口 1 9 の間に吐出口列 1 2 A と吐出口列 1 2 B とを設ける。これによって、流入口 1 8 や流出口 1 9 を追加することなく、記録素子基板のサイズを抑制することができる、複数の吐出口列を高密度に配置することができる。

20

【0022】

このようにして、記録素子基板のサイズの増加を抑制しながら多列化した吐出口列を高密度に配置した記録素子基板、液体吐出ヘッドおよび液体吐出装置を実現することができた。

【0023】

（第 2 の実施形態）

以下、図面を参照して本発明の第 2 の実施形態を説明する。なお、本実施形態の基本的な構成は第 1 の実施形態と同様であるため、以下では特徴的な構成についてのみ説明する。

30

【0024】

図 4（a）は、本実施形態に係る液体吐出ヘッド 2 を構成する記録素子基板における吐出口 1 2 やこれに対応する圧力発生素子 1 3 などの配列を示す図であり、吐出口形成部材の一部を取り除いて示している。図 4（b）は、図 4（a）の IVB-IVB 線における断面図である。

【0025】

本実施形態における吐出口列 1 2 A、1 2 B や流路 1 1 の構成は、第 1 の実施形態と同様である。本実施形態と第 1 の実施形態とは、流入口と流出口の構成が異なる。本実施形態における流入口 1 8 A および流出口 1 9 A は、図のように、複数の流入口 1 8 A および流出口 1 9 A のそれぞれが吐出口列 1 2 A、1 2 B に沿って 1 列に配置された構成になっている。なお、流入口 1 8 A および流出口 1 9 A は複数設けられているが、個別の流入口 1 8 A および流出口 1 9 A が個別の流路に対応しているものではない。つまり、流入口 1 8 A は、配列する複数の流入路 1 5 に共通に連通し、流出口 1 9 A は、配列する複数の流出路 1 6 に共通に連通している。このように、複数の流入口 1 8 A や複数の流出口 1 9 A を備えた構成は、流入口 1 8 A 同士の間、また流出口 1 9 A 同士の間が梁の役割をはたすので、基板 20 の強度を高めるのに有効である。

40

50

【0026】

このように、隣接する流路同士のそれぞれが連通する吐出口列12Aの吐出口と吐出口列12Bの吐出口とを、矢印X方向に所定距離ずれた位置でありかつ矢印Y方向にそれぞれの吐出口配列ピッチの半分ずれた位置に配置し、各吐出口が独立した流路を備える。更に、複数の流入口18Aおよび流出口19Aを吐出口列に沿って1列に配置する。このような構成でも、記録素子基板のサイズの増加を抑制しつつ多列化した吐出口列を高密度に配置した記録素子基板、液体吐出ヘッドおよび液体吐出装置を実現することができた。

【0027】

(第3の実施形態)

以下、図面を参照して本発明の第3の実施形態を説明する。なお、本実施形態の基本的な構成は第1の実施形態と同様であるため、以下では特徴的な構成についてのみ説明する。

10

【0028】

図5(a)は、本実施形態に係る液体吐出ヘッド2を構成する記録素子基板における吐出口12やこれに対応する圧力発生素子13などの配列を示す図であり、吐出口形成部材の一部を除いて示している。図5(b)は、図5(a)のVB-VB線における断面図である。本実施形態の構成は、第2の実施形態と流路の構成が異なっている。

【0029】

本実施形態では、第1、第2の実施形態と同様に各吐出口12には、それぞれ独立した流路11が設けられている。そして、吐出口12を挟んで隣接する流路と流路の一部との幅が実質的に同じ幅となるように構成されている。

20

【0030】

具体的には、流入口18Aから近い位置にある吐出口列12Aに連通する流入路15Bと、流入口18Aから遠い位置にある吐出口列12Bに連通する流出路16Bとは、実質的に同じ幅を備えた流路であり、均一な幅から成る流路となっている。

【0031】

これに対し、流入口18Aから近い位置にある吐出口列12Aに連通する流出路16Aと、流入口18Aから遠い位置にある吐出口列12Bに連通する流入路15Aとは、異なる2つの幅を備えた流路となっている。そして、流入路15Aおよび流出路16Aの一部である幅の狭い流路の幅は、流入路15Bおよび流出路16Bの幅と実質的に同じ幅に形成されている。また、いずれの流路においても、吐出口12(圧力室17)にインクを流入させる流入路(流入路の一部)と、吐出口12(圧力室17)からのインクの流出を導く流出路(流出路の一部)は、実質的に同一幅の流路となっている。

30

【0032】

このように吐出口12(圧力室17)にインクを流入させる流入路(流入路の一部)と、吐出口12(圧力室17)からのインクの流出を導く流出路(流出路の一部)と、を実質的に同一幅にすることで、吐出口12(圧力室17)の前後で流抵抗が同等となる。そのため、吐出口から吐出するインクの直進性を良くすることができる。

【0033】

また、流入口18Aから流出口19Aに流れる循環流14が、流入口18Aから近い位置にある吐出口列12Aと、遠い位置にある吐出口列12Bとのそれぞれの流入路15A、15Bの流抵抗の差が、第1および第2の実施形態のそれよりも更に少なくなる。そして、流入口18と流出口19の間に圧力差を設けた場合、隣接する流路11におけるインク流速を略同速にすることができる。隣接する流路11におけるインク流速が略同等になることで、隣接する流路11におけるそれぞれの吐出口12で、略同等の吐出特性を得ることができる。

40

【0034】

なお、本実施形態において、流入口18Aから近い位置にある吐出口列12Aに連通する流出路16Aと、流入口18Aから遠い位置にある吐出口列12Bに連通する流入路15Aとは、異なる2つの幅を備えた流路としたが、これに限定するものではない。吐出口

50

1 2（圧力室 1 7）にインクを流入させる流入路（流入路の一部）と、吐出口 1 2（圧力室 1 7）からのインクの流出を導く流出路（流出路の一部）とを実質的に同一幅にすれば、2 つよりも多い複数の幅を備えた構成でもよい。

【0035】

このように、隣接する流路同士のそれぞれが連通する吐出口列 1 2 A の吐出口と吐出口列 1 2 B の吐出口とを、矢印 X 方向に所定距離ずれた位置でありかつ矢印 Y 方向にそれぞれの吐出口配列ピッチの半分ずれた位置に配置し、各吐出口が独立した流路を備える。更に、複数の流入口 1 8 A および流出口 1 9 A を吐出口列を挟んで設け、吐出口を挟んで隣接する流路の幅が実質的に同じ幅となるように構成する。これによって、記録素子基板のサイズの増加を抑制しながら多列化した吐出口列配置を可能とする記録素子基板、液体吐出ヘッドおよび液体吐出装置を実現することができた。

10

【0036】

（第 4 の実施形態）

以下、図面を参照して本発明の第 4 の実施形態を説明する。なお、本実施形態の基本的な構成は第 1 の実施形態と同様であるため、以下では特徴的な構成についてのみ説明する。

【0037】

図 6（a）は、本実施形態に係る液体吐出ヘッド 2 を構成する記録素子基板における吐出口 1 2 やこれに対応する圧力発生素子 1 3 などの配列を示す図であり、吐出口形成部材の一部を除いて示している。図 6（b）は、図 6（a）の VIB-VIB 線における断面図である。本実施形態の構成は、流路の形状は第 1 の実施形態および第 2 の実施形態と同様であるが、フィルタを備えているため、その分の流路の長さが第 1 の実施形態および第 2 の実施形態よりも短くなっている。

20

【0038】

本実施形態では、流入口 1 8 A と吐出口 1 2（圧力室 1 7）との間の流路の流入部および流出口 1 9 A と吐出口 1 2（圧力室 1 7）との間の流路の流出部に、円柱状のフィルタ 2 1 が設けられている。フィルタ 2 1 は断面の面積が大きなフィルタ 2 1 A と断面の面積が小さなフィルタ 2 1 B との 2 種類があり、断面積の大きなフィルタ 2 1 A は幅の広い流入路および流出路に、断面積の小さなフィルタは幅の狭い流入路および流出路にそれぞれ対応して設けられている。

30

【0039】

このように、各流路の流入路 1 5 および流出路 1 6 に対応したフィルタを設けることで、吐出特性に影響する流入路 1 5 および流出路 1 6 の流抵抗をほぼ同等にすることができる。また、フィルタ 2 1 が流入路 1 5 に存在するため、循環流 1 4 に含まれる異物が流路に入り込むのを防ぐことができる。これによって、異物が流路に詰まって吐出口 1 2 からインクを吐出しなくなる不吐出を抑制することができる。

【0040】

このように、隣接する流路同士のそれぞれが連通する吐出口列 1 2 A の吐出口と吐出口列 1 2 B の吐出口とを、矢印 X 方向に所定距離ずれた位置でありかつ矢印 Y 方向にそれぞれの吐出口配列ピッチの半分ずれた位置に配置し、各吐出口が独立した流路を備える。更に、複数の流入口 1 8 A および流出口 1 9 A を吐出口列を挟んで設け、各流路の流入路 1 5 および流出路 1 6 に対応したフィルタを設ける。これによって、記録素子基板のサイズの増加を抑制しながら多列化した吐出口列配置を可能とする記録素子基板、液体吐出ヘッドおよび液体吐出装置を実現することができた。

40

【0041】

（第 5 の実施形態）

以下、図面を参照して本発明の第 5 の実施形態を説明する。なお、本実施形態の基本的な構成は第 1 の実施形態と同様であるため、以下では特徴的な構成についてのみ説明する。

【0042】

50

図7(a)は、本実施形態に係る液体吐出ヘッド2を構成する記録素子基板における吐出口12やこれに対応する圧力発生素子13などの配列を示す図であり、吐出口形成部材の一部を除いて示している。図7(b)は、図7(a)のVII B-VII B線における断面図である。吐出口形成部材10には、複数の円形の吐出口12が列を成して設けられた吐出口列12 Aと、吐出口列12 Aと同じピッチで矢印X方向に所定距離ずれた位置でありかつ矢印Y方向の同じ位置に吐出口列12 Bと、が設けられている。上記各実施形態では、各流路におけるインクの流れは、流入口18 Aから流出口19 Aまで、直線的な流れを形成していた。しかし本実施形態の流路では、流入路15と流出路16とは、矢印Y方向にずれた位置に設けられていることから、インクの流れも直線的ではなく、部分的に曲がった流れとなっている。

10

【0043】

つまり、幅の広い流入路15で、流入口18 Aに近い吐出口列12 Aの吐出口12（圧力室17）に向かって流れ込んだインクは、その後、流入口18 Aから遠い吐出口列12 Bの吐出口12同士の間を通る幅の狭い流出路16を経て流出口19 Aへと向かう。また流入口18 Aに近い吐出口列12 Aの吐出口12同士の間を通る幅の狭い流入路15を経たインクの流れは、その後、流入口18 Aから遠い吐出口列12 Bの吐出口12（圧力室17）へと向かい、幅の広い流出路16を経て流出口19 Aへと向かう。

【0044】

このような構成によって、吐出口の配列を更に高密度化することができ、記録素子基板のサイズの増加を更に抑制することができる。更に、吐出口列12 Aに対応する流路11と吐出口列12 Bに対応する流路11の流抵抗を実質的に同等にすることができる。

20

【0045】

また、吐出口が吐出口列方向（矢印Y方向）に揃って配置されていることから、配線を直線で通すことが出来るため、圧力変換素子に通電するための配線や、圧力変換素子に通電するための駆動素子の駆動に用いる配線を配置し易い構成となっている。

【0046】

このように、隣接する流路同士のそれぞれが連通する吐出口列12 Aの吐出口と吐出口列12 Bの吐出口とを、矢印X方向に所定距離ずれた位置に配置し、各吐出口が独立した流路を備える。更に、複数の流入口18 Aおよび流出口19 Aを吐出口列を挟んで設ける。これによって、記録素子基板のサイズの増加を抑制しながら多列化した吐出口列配置を可能とする記録素子基板、液体吐出ヘッドおよび液体吐出装置を実現することができた。

30

【0047】

（その他の実施形態）

図8(a)は、その他の実施形態に係る液体吐出ヘッド2を構成する記録素子基板における吐出口12やこれに対応する圧力発生素子13などの配列を示す図であり、吐出口形成部材の一部を除いて示している。図8(b)は、図8(a)のVIII B-VIII B線における断面図である。

【0048】

上記各実施形態では、インクは流入口18から流入して、流出口19から流出する構成を説明したが、その他の実施形態として、流入口18と流出口19の両方からインクを流入して、その流入したインクを吐出口から吐出する構成を説明する。

40

【0049】

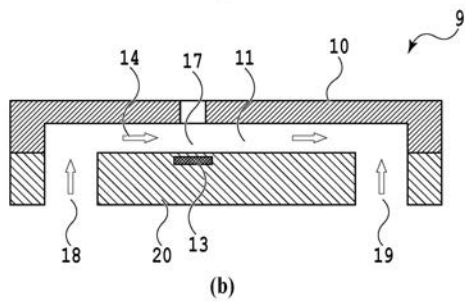
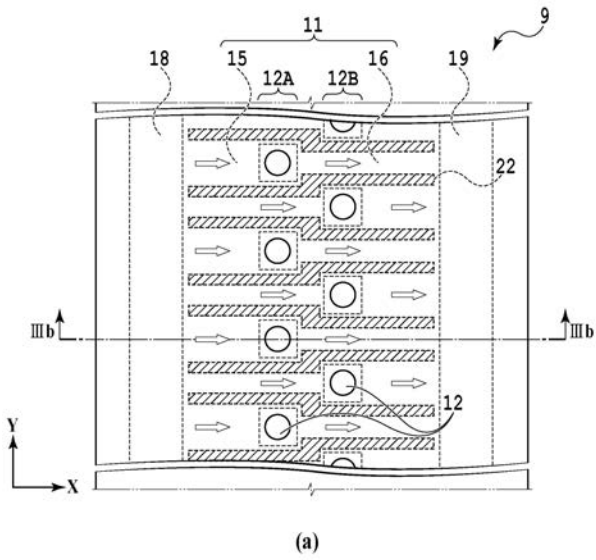
本実施形態における記録素子基板9の構成は、第1の実施形態の記録素子基板9と同じ構成である。第1の実施形態では、インクは流入口18から流入して、流出口19から流出する構成だったが、本実施形態ではインクは流入口18から流入して、流出口19からも流入する。流入口18および流出口19から流入したインクは、流入路15および流出路16を圧力室17に向かって流れ、各吐出口12から吐出される。

【0050】

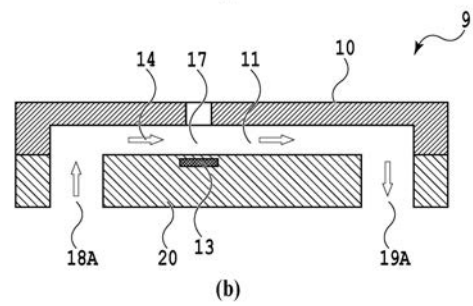
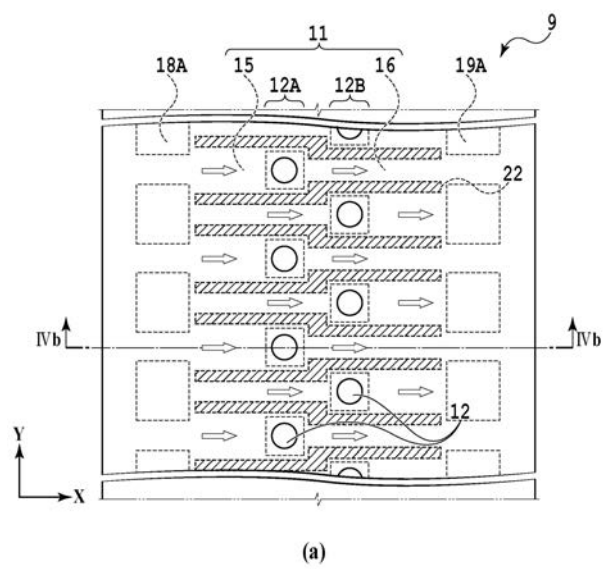
ここでは、第1の実施形態の記録素子基板の構成を例に説明したが、第2から第5の各実施形態の記録素子基板の構成でも同様のインクの流れにすることができる。

50

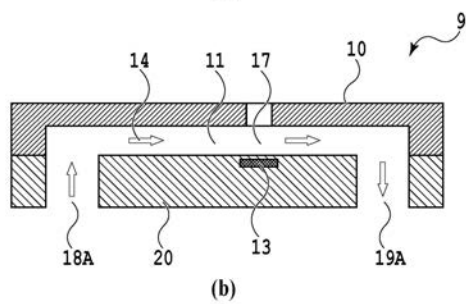
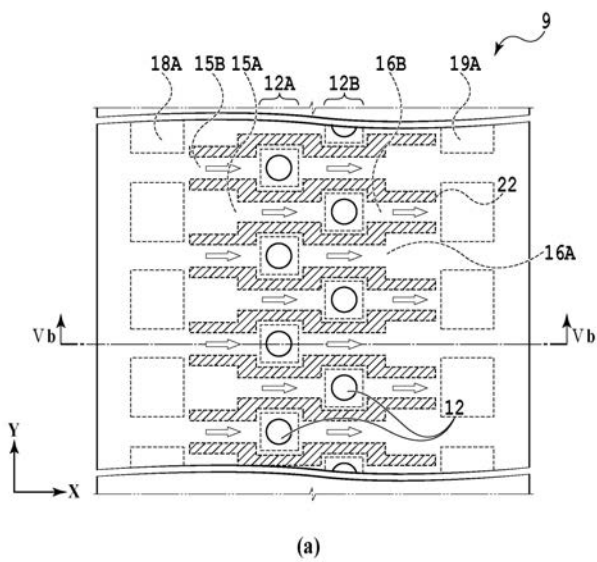
【図 3】



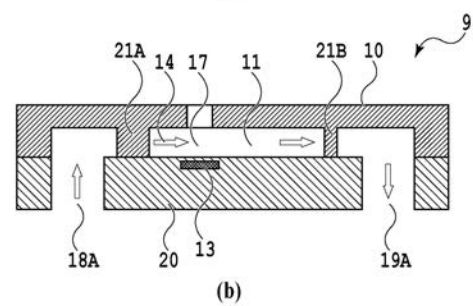
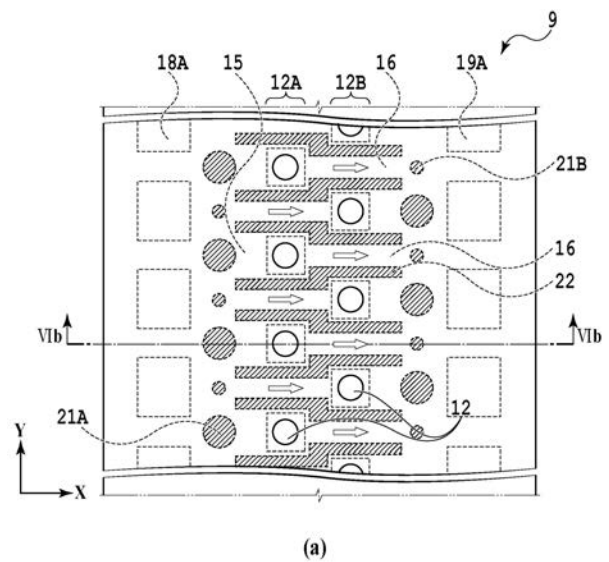
【図 4】



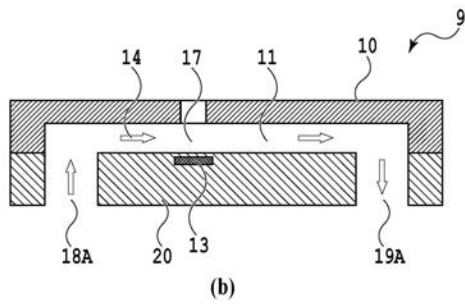
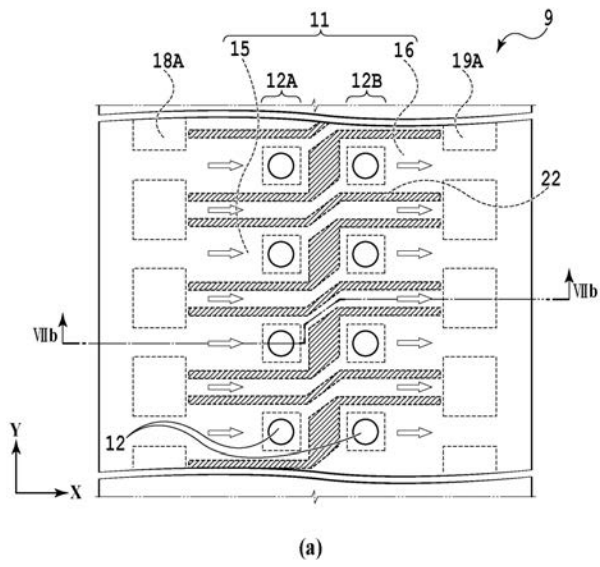
【図 5】



【図 6】



【図 7】



【図 8】

